



明へ奉 13
1296
卷 1-8

明治三十九年一月二十九日
水谷三彦氏寄贈

一週りかた

但一日一夜、
見科同改、
在外、
味線か、
物取、
薬種、
柳骨、
柳中、
土着、
物、
何、
よ、
次、
用、
法、
終、
付、
て、
中、
作

但州湯治中、
甚、
奈、
了



席

鶏けい北ひつ朝あさ一いつ端はなはとと中ちゆう利りと

一いつ宜あやむあありり好こう軟なん弱じやくのの白はくハ

一いつ心しんをを中ちゆう端はなは一いつ欲よく温おんをを生せい

一いつ年ねん少せう壯さう眼がんををお

一いつ心しんをを中ちゆう端はなは一いつ欲よく温おんをを生せい



九 く 鼓 こ ま ま 子 こ 一 いち 移 うつ り り 移 うつ り り 表
 り り 所 ところ と と せ せ う う れ れ 一 いち 移 うつ り り 生 なま り り 是 こゝ
 を を 喜 よろこ ぶ ぶ し し 一 いち 淀 い 川 づか 実 ま 録 ろく と
 一 いち 溝 ぞう 池 い の の 東 あづま の の 櫃 ひら と と 作 し
 ひ ひ ぢ ぢ う う く く 移 うつ り り 一 いち 出 い 立 だて り り 是 こゝ

今 いま 部 ぶ ハ は 幸 さいき と と な な し し 一 いち お お 其 その 他 ほか 用 よう
 物 もの 一 いち し し 移 うつ り り 一 いち 移 うつ り り 是 こゝ

毛 け 角 かく 七 しち 人 にん 包 ほう

一週りが代八ト

但一日一夜と見科同防に在作
け外現うと味線か物取ふと并
藥種柳骨柳中土着物ゆと
用は終付て中作

但州湯治中屋甚在案門

書歌対渡川美録卷之三



月録



一石流歌正八梅文津来の事

并 渡河原久師成立の事

一 渡河原久師成立の事

并 宮指河原久師成立の事



東勅刻後河身源巻の一

石清水正八幡宮神集の巻

兼 後河原又前坂立の巻

人のあま^{そのふた}り我^{その}人^{あま}あり
 ごとく^た御^ま神^{かみ}宣^{のたま}ひ^はて^{まつ}る^まは^らむ^らは^らむ^ら
 あり^{ひん}の^{あま}神^{かみ}日^ひ本^{もと}神^{かみ}素^す戔^{とみ}乃^の
 天^{あめ}皇^{みかど}の^{みこと}神^{かみ}天^{あま}皇^{みかど}の^{みこと}孫^{むすこ}

河内帝神御座に皇太子と後内侍
ありしなりと云々神とせんとせり皇太子
の御座ありし御座ありし御座ありし
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり

保来まきた大空に
ありしなりと云々神とせんとせり
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり
御座ありしと云々神とせんとせり
ありしなりと云々神とせんとせり

心御祈りし後をそのお宇佐の郡
 赤坂山は八流の層楼より遠を
 まひし心より主源四十八代の帝隆武
 天皇の御宇神皇正統記に山嶽のま
 ねは清くのみまよて清くも宗ありま
 しましより男山の松風百部とよま
 おもはしむるごとくぬれぬかたは神威のまか
 とありしより神正なるつらありしありま
 たりしを法河側とたしむる世とよまは

八岐さびしきつらありしありま元々二丁の
 己の年秋九月小波はまのの神家の内小
 書新と討しりありし始終を御ま
 波八岐の沖ふ下村式しりきりきり
 のは栲列方取うがしえし山に源を
 展入希りしありあけ源のちを延とえ
 山列はりのみちあり八岐の神威し
 けりしちりくけりしちりくちのち坂の御城
 地を御願寺の御堂ありし形と人

あさしきうらるが織田信長公け地と
くげらる形如と人紀列治の如く
この地より信長公けに治列治とよ
海しりくわが海を越えそのち地と建
ましくち地へ河をめぐるとよま
かこのしきうらるの地は治列治とよ
くよあさしきうのあし河
角井の地を治列治とよま
の地よあさしきうの地とよま

新橋の地は治列治とよま
けり地よりあさしきうの地とよま
治列治とよまの地は治列治とよま
くげらる形如と人紀列治の如く
この地より信長公けに治列治とよ
海しりくわが海を越えそのち地と建
ましくち地へ河をめぐるとよま
かこのしきうらるの地は治列治とよ
くよあさしきうのあし河
角井の地を治列治とよま
の地よあさしきうの地とよま

こと西園よりとけり此後河小流し
おのゝちかき一紙をたぬきかしくち飯
御座のしにちね軍あけあはし
とくしやせむとせしは後河は
西園よりよちりしにちよんは
節をきし我家のつよちとち
月んちがしくち懐しくあし
御座るは流しよに河はしくち
おのゝちかきとけりとせあ

今少流しよ新の流河のやしく是あり
おち坂流去の流しよにち年卯の
うち年り流去の流河は
一時ち坂の流河はやくちせん
今流しと吹流あはしく又流し
御座るは流しよに河はしくち
おのゝちかきとけりしにち
りり同入年末の年り流去は
うり、柳列、西園流あはしく

終りの糸上つらなればねんはとて
るよと居る師祖又居る居るといふ
かられも形もあつていふもたつた
河の文音は能とそめ并つていふ
けいせんも出たては毒也といふ
もあつていふおつたつて新河の
小き史といふ女とあつていふ
せうとては師祖居る師祖の
角中入替の法といふいふいふ
とていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとて
胃といふとていふとていふとて
茶の湯といふとていふとていふ
別といふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとて
あつていふとていふとていふとて
あつていふとていふとていふとて
あつていふとていふとていふとて
あつていふとていふとていふとて

柳 さくを植 植 好き 宜い 好い
お母 母 花を 初 初りて ち 母の 花を
ま 母ありくの 花を 宜く 好く
阿 阿ひらき 二人 阿お
花のおうり おも け 好き
せ せと 子 代 け 好き
お 父 子 の 子 け 好き
ら せ 来 け 好き
り 母 あり け 好き

ん の 花 好き
り け 好き
ん け 好き
ら け 好き
ん け 好き
ち け 好き
の 白 好き
お け 好き
花 好き

るも若き者のさへいづれか入るに形
の楊梅と云ふ花ありて深酒あり
されたりかちけと云ふけ形を有ひし
系多き酒に御もまゝにふぬ人新穀悪人
乃日代も主人のさへいづれか入るに形
今津と云ふ世流ありて茶のりや
なれあゝ主人のつらみ流と云ふは
け或人のま物と云ふと云何ありと
ありて同好と云ふ世を流る世の流る
流世少流の教道と云ふ流白と云ふ哲
くもあつたを教ふつけと云ふ年を
く和せふゆれが怪と云ふと云ふあり
がり何事にも人のあつたを教ふと云ふ
あつたをいつたもいふと云ふありと
うけはちと云ふと云ふと云ふありと
さく徳流と云ふと云ふと云ふありと
うと云ふと云ふと云ふと云ふありと
と云ふと云ふと云ふと云ふありと
と云ふと云ふと云ふと云ふありと

比ち物よまう住者もまう屋敷
 下町物ませしふあまびねき利口者
 口合酒のあまふ出と能りてねし
 下町ま屋敷のあまふ出と能りてねし
 伊あまちあみりるかこまのあまふ
 ましふまがすめあま新町ま
 のあつまこまあま清町ま屋敷
 か嘉母ままのあま清町のあま
 初まあま清町のあま入十ま

下町外くまゆふ山まあま
 横久山清と次ま清もりふま
 ち福もままままあまあま
 或附屋敷のあま清のあま
 例の家まあま清のあま清の
 まままらりあまのあまあま清
 まままらりあまのあまあま清
 下町まあまのあまあま清
 押理まあまのあまあま清

みすあまをわくく 幸のひふめくた〜
おあきりひさし



後川家録巻の一終

しるし〜ぬり記名人何ふか
記しありふし生年今と
善むい世の何よりせん也一日
ゆりとも我あふとふあ〜
おつれれらん名わし〜
こひあひまをいせとゆき
ア〜あふ〜したと〜
まひ〜あふ〜

